

令和3年度 第1回 新潟市男女共同参画推進センター運営委員会 議事概要

日 時： 令和3年6月8日（火） 午前10時～11時30分
場 所： 新潟市万代市民会館 307・308研修室
出席者： 新潟市男女共同参画推進センター運営委員
西條委員、指田委員、塩沢委員、高橋委員、田口委員、永田委員
事務局（男女共同参画課）
笹川課長、堀川課長補佐、竹田課長補佐、井上副主査
団体
「劇団 blue ジーンズ」小池代表
「わいわい夢工房 “防災カフェ” プロジェクト」大橋代表

1 開会

2 男女共同参画課長あいさつ

3 運営委員・男女共同参画課職員紹介

4 男女共同参画市民団体協働事業審査

(1) 「創作劇 女たちの72時間」（劇団 blue ジーンズ）の審査

（団体） 事業概要説明

（西條委員） 特に妊婦の方や若い方に観てほしいが、若い方への広報を考えているか。

（団体） SNS や口コミでPRを考えている。また、アルザからホームページにチラシを載せてもらいたいと考えている。

（西條委員） ワンコインぐらいのチケット代を徴収することは考えているか。

（団体） 生活が厳しい方もいらっしゃるかと思うので、チケット代を徴収しないことで広く誰でも観れる機会になればよいと考えている。また、歌手の曲を使用し、お金を徴収すると著作権の危惧もあるので、現在、検討中である。

（塩沢委員） 可能ならば、参加費の徴収などを検討してほしい。また、万代市民会館の6階ホールの改修工事終了後は、アルザにいがたをベースにして公演してほしい。

（団体） ほとんどのスタッフはアルザにいがたをきっかけに女性問題に目覚めたり、学びを深めたりしてきた。劇団は今年15年目を迎えるので、ぜひアルザにいがたでやりたかったが、今回は他の会場を検討している。

（田口委員） 若い世代へのアプローチとして、子育て世代や若い世代が足を運びやすい会場にすると参加しやすいと思う。また、男性も取り込むことも力を入れてほしい。内容は男性が観ても考え得る内容か。

（団体） 大きなテーマは「平和を実感していこう」なので、男女を問わない内容だと考えている。若い世代の呼びかけは更に検討し、子育て中の方に足を運んでもらえるような会場も考えていきたい。

(2) 「防災カフェ in いがた」（わいわい夢工房 “防災カフェ” プロジェクト）の審査

（団体） 事業概要説明

（塩沢委員） 男性の参加者の年齢層を教えてください。

- (団 体) 平日の日中に実施したが、半分が高齢の男性で、高齢のご夫婦や男性が一人での参加が多かった。退職された年齢層の方たちは会話をする場所を求めているのではと感じる。
- (田口委員) 防災について考えるきっかけになると思うが、何年も実施し、具体的に自治会や市の防災部署などへフィードバックする機会や働きかける機会はあるか。
- (団 体) 5・6年前に市主催の避難所を見直すワーキンググループに参加し、その経験を踏まえて、活動を始めた。市の防災部署と連携しながら実施し、自分たちの活動はゆるやかに楽しみながら、防災という硬い話を行っている。
- (田口委員) よい取り組みなので、市民と行政の橋渡しをしてほしい。
- (高橋委員) パッククッキングは男女共同参画の視点から考えるとどのような内容を行うのか。
- (団 体) パッククッキングは主に災害時に役立てることができる調理法で、誰にでもいろいろな調理ができる。料理は女性の仕事ということではなく、誰でも安全に短時間で身近にあるもので調理できることを子どもの頃から知ってほしいということで、数年前から行っている。今回は調理する所を見る座学形式にした。

(審議非公開)

5 その他

- (事務局) 次回の運営委員会は10月頃の開催を予定しているが、あらためて各委員の日程を調整のうえ案内する。

(参考)

決定団体名・事業名

団体名	事業名
劇団 blue ジーンズ	創作劇 女たちの72時間
わいわい夢工房 “防災カフェ”プロジェクト	防災カフェ in にいがた